

Title	史學集刊(國立北平研究院史學集刊編輯委員會印行)
Sub Title	
Author	宮島, 貞亮(Miyajima, Teisuke)
Publisher	三田史学会
Publication year	1936
Jtitle	史学 Vol.15, No.3 (1936. 11) ,p.145(509)- 146(510)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19361100-0145

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

べき業績と云はねばならぬ。著者は更に最近多く戦國時代文化遺物の出土した金村の發見遺物に就て同様な雜録を出版せられるさうであるが、斯くの如きアルバイトに依り漸次支那考古學の確實な資料が記録化され、支那考古學の全貌を知るための礎石が打建てられてゆくことは吾人にとつて限りなく悦ばしい。願はくば著者が將來益々その足まめ筆まめを發揮されて此の種の刊行に世を益されんことを希望する。その中には支那の時局も平靜になり、吾人の望む地點に於て計畫的發掘が何人に依つても遂行され得る時代が来るであらう。速かにかゝる時機を將來させて支那考古學を眞の意味の正道に闊歩させたいものである。

本書の最後に森鹿三氏が李峪の歴史地理的小研究を添へ、山岳祭祀の遺品として李峪の發見物を解釋する場合如何なる見地に立つべきかを述べられてをるのも有益な記文である。(松本信廣)

史學集刊 (國立北平研究院史學集刊編輯委員會印行)

從來比類なき優秀な文化機關を擁し、文化都市として譽れ高かつた故都幽燕も、近來貴重な物書の南遷により、漸く内容空虚化せんとする傾向がある、又北平に於ける文化機關中、重要な地位を占めてゐた中央研究院北平分院も不日南遷の計畫がある、此の時に當り、北平研究院が故都文化機關のため、大いに健闘し、その業績また賭るべきものあることは注目に値する。

北平研究院は民國十八年九月正式に成立した文化機關である。成立以來日なほ淺いが、生物學、植物學、動物學、地質學、考古

書評

學、史學方面の研究大いに賭るべきものあり、殊に史學研究會が本院内に設けられ、徐炳昶氏が考古組主任、顧頡剛氏が歴史組主任に夫々聘せらるるや、史學研究會は頓に活氣を呈するに至つた。史學研究會は民國十八年に成立したのであるが、その目的は(一)北平志の編纂、(二)北方革命史料の蒐集、(三)清代通鑑長編の編纂、(四)發掘及考古等である、民國二十年徐炳昶氏が考古組主任に聘せらるるや、考古組は考古組及調査編纂組の兩方面に分れた、二十二年考古組は陝西に於て、豐鎬、犬邱、阿房宮等の遺址を調査し、二十三年及二十四年上半年に、寶雞門雜臺、唐中書省の舊址を發掘、二十四年下半年は、河北河南の境上にある響堂山に於て石刻其他の調査に従事した。

調査編纂組方面の主要な工作は、北平廟宇の調査及び近代史料の蒐集にあつた。二十四年七月、顧頡剛氏が同會の歴史組主任に聘せらるるや、史學研究會内に正式に歴史及考古の兩組が成立するに至つた。

かくて二十三年九月、北平金石目(壹元貳角)、北平史表長編(貳冊貳元)、二十四年一月考古專報(第一卷第一號貳元)、同年七月、近代秘密社會史料(四冊三元)等の良書が續々刊行され、同會の目的が着々實現されつゝあることは、同會のため寔に欣快の情を禁じ得ない。

史學集刊は本年四月北平研究院史學集刊編輯委員會より創刊されたもので、年二回刊行の豫定である。

次に本書收録の題名を掲げることにする。

徐炳昶

(五九)

一四五

唐後回鶻考

宋史建隆四年乾德六年太平興國九年考

明本兵梁廷棟請斬袁崇煥原疏附跋

明清兩代河防考略

衛藏通志著者考

石鼓文「鄠」字之商榷

禪門第一組菩提達摩大師碑跋

密宗塑像說略

禪讓傳說起于墨家考

史記刊誤舉例

周易本義考

右の中、編輯委員長顧頡剛氏の七十葉に互る論文は本書の歴卷である。

最近中國に諸種の史學雜誌が創刊されたが、永續するものが殆ど無い、これは洵に遺憾なことと言はなければならぬ。

茲に創刊された史學論叢(二十三年七月、國立、史學(二十四年一月、國立、史學專刊(二十四年十二月、國立中山大學)等が其後續いて刊行され

たことをさかさない。創刊以來引續き刊行されてゐるのは、纔に北平燕京大學の史學年報位なものである。筆者は今後本書が少くとも年一回刊行されることを冀望し、併せて北平研究院今後の活躍を祈り欄筆する。(二七六葉、八角)(昭和十一年七月、宮島貞亮)

寄贈交換圖書雜誌目錄

熾仁親王日記 卷五、六

文化學研究年報 第三輯

東洋史論文要目

大東文化 第十三號

埼玉史談 七ノ六

福岡 六二

金鷄學院叢書 一〇二、一〇三

龍谷史壇 一八

伊豫史談 八七

法相宗勸學院同窓會會報 七

考古學年報 昭九

南國史叢 第一輯

文化 三ノ七、八、九

燕京學報 第十九

風俗研究 一九四、五、六

神社協會雜誌 三五ノ七、八、九

人類學雜誌 五一ノ七、八、九

上毛及上毛人 七、八、九

經濟史研究 一六ノ一、二、三

考古學 七ノ六、七、八

考古學雜誌 二六ノ六、七、八、九

國學院雜誌 四二ノ七、八、九

高松 宮家

日大文學科

大塚史學會

大東文化學院

埼玉郷土會

東西文化社

金鷄學院

龍谷大學史學會

伊豫史談會

法隆寺勸學院

東京考古學會

薩藩史研究所

東北帝大圖書館

燕京大學圖書館

風俗研究所

神社協會

東京人類學會

上毛郷土史研究會

日本經濟史研究所

東京考古學會

考古學會

國大雜誌部